



2002年09月19日

フォルクスワーゲン ニュービートル カップ ジャパン2002最終戦(富士)リザルト



9月14日(土)、フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社(略称VGJ、代表取締役社長:梅野 勉)がサポートする、輸入車初のJAF(日本自動車連盟)公認ナンバー付きワンメイクレース、“フォルクスワーゲンニュービートル カップ ジャパン2002”(以下:NBCJ)の最終戦が、今年で3回目の開催となった“フォルクスワーゲン フェスト イン フジ”の会場「富士スピードウェイ(所在地:静岡県駿東郡)」にて併催され、今年のレースシリーズ全5戦すべてのプログラムを終了しました。

今年最後のNBCJは、三連休初日の開催と、さらに、第3回目を迎えたVWフェストとの併催もあって、生憎の天気にもかかわらず、早朝から多数のVWファンが集う中での開催となりました。この日のコースコンディションは一日中ウエットとハーフドライを繰り返す状況であり、ワンデーレースの予選は9:10分にスタート。約20分のタイムアタックが行なわれました。その結果、ポールポジションには、ゼッケン55: Team DUO Beetleの坂本祐也選手、二番手にはゼッケン99: CRT New Beetleの壺林貴也選手、三番手にはゼッケン4: VW金沢の又多ムツヒロウ選手が揃いました。

午後1:30、依然としてはっきりとしない微妙な空模様の中、決勝はスタートしました。レース序盤は各選手とも、タイヤのウォーミングアップとレーンの確認を慎重に行い、中盤以降は徐々にペースを上げながらレースの組み立てをしていくものの、やはり、FISCO特有のハイスピードなストレートとウエットなコンディションにより、順位が大きく入れ替わる結果となりました。

結果的にNBCJ最終戦では、第4戦(筑波)で今季シリーズチャンピオンを決めた坂本選手が、ポールトゥーフイニッシュでチェッカーフラッグを受けると、2位も手堅い走りポイントを重ねたゼッケン99: 壺林貴也選手が入賞。第3位には、予選4位からワンポイントアップしたゼッケン1: カーエクスタシア・ビートルを操る清水和夫選手が、初参戦ながら初入賞という実力を見せ付けました。

今季チャンピオンに輝いた坂本祐也選手は、今年も10月13日(日)ドイツ オッサーズレーベンで開催されるADACニュービートル カップ最終戦にゲスト選手として参戦する権利が与えられました。このレースでは、2000年に山本将也選手が4位に輝くなど、日本人選手への期待も高まっており、今年も再び神風旋風を興してくれるものと期待しています。

最終戦: エキスパートクラス決勝公式結果

最終戦: クラブマンクラス決勝公式結果

決勝	クラス/予選	ゼッケン	ドライバー/車名	所要時間	決勝	クラス/予選	ゼッケン	ドライバー/車名	所要時間
1	Ex-1	55	坂本祐也: Team DUO Beetle	21'17.833	1	Cl-1	38	高橋克彦: DUO定禅寺ニュービートル	21'37.287
2	Ex-2	99	壺林貴也: CRT New Beetle	21'22.245	2	Cl-2	44	諸江明祐: VW金沢	22'00.235
3	Ex-4	1	清水和夫: カーエクスタシア・ビートル	21'31.226	3	Cl-4	50	北山 浩: MTO Beetle	22'01.840
4	Ex-5	7	伊藤与志雄: 110RACING-Beetle	21'32.540	4	Cl-3	37	金子 誉: 浦安R.TELTZニュービートル	22'14.554
5	Ex-7	2	吉富 章: Snap-on Beetle	21'32.825	5	Cl-6	96	黒澤隆一: VW本山・小牧ビートル	22'41.858
6	Ex-9	00	松本玲二: VW New Beetle	21'35.259	6	Cl-8	3	小田山秀明: 砂子塾関西 遊戯 公認車両改	22'42.016